

全ては人間の行い次第

一年 糠谷伸之介

僕が生まれる前から居た家族の猫は、三年前の冬、眠るように逝ってしまった。その時の顔は、本当に寝ているようでやさしい顔をしていた。最期の時を迎える一週間前からご飯も水も口に出来なくなっていて、けいれんしたり、歩くにも二、三步でフラフラしていた。そんな状態でも、僕にだっこをせがんだり、名前を呼ぶと返事をしてくれた。

亡くなった原因は、病気ではなく老衰で寿命を全うしたとお父さんが教えてくれた。その時の僕には、理解が難しかった。はつきり分かった事は、一緒に暮らしていた家族が亡くなる事の悲しみだった。時が過ぎて、可愛かった仕草や遊んだ事を思い出し、気持ちが癒されたり悲しくなったりする。

僕の家では、現在三匹の猫を飼っている。その内二匹は知り合いが飼えなくなったと相談を受け引き取った子で、一匹は野良猫を保護した。この野良猫は、ある日、家の庭に現れた。やせて小さくとても弱々しかった。ご飯をあげても食べないで、近づいても逃げなかった。

お母さんがその様子を見て、

「病気かもしれない、保護して病院へ連れて行こう。」

と、言った。その子は、何の抵抗もなくあつという間にお母さんに捕まった。

病院で診察を受けた結果、白血病を発症していることが分かった。この病気は、完全に治る事はなく、しかも猫同士で病気が感染してしまうとの説明を受けた。家で飼う事の難しさはあつたが、僕達家族は、この子を家に迎え入れる決断をした。あの日から八カ月経つ今、この子は元気いっぱい暮らししている。

この子の耳先はカットしてある。避妊手術を受けた印だ。その事から、何かしらの形で人の手があつたということだ。それなのに、野良猫になっていた。

この事実をきっかけに僕は、動物の殺処分について調べた。国は殺処分ゼロを目指しているが、今でも年間犬・猫合わせて約四万頭近く殺処分が行われている。一日に換算すると、約百頭が毎日どこかで不条理に殺処分されている。

犬も猫も僕達人間も同じ命なのに…

人間が毎日どこかで不条理に殺されることはないのに…

僕は、思う。全ては人間の行い次第なのではないかと。

ペットを飼うことは、その動物と家族になるということ、人間の都合で世話をしなかったり、捨てたりするのは絶対にしてほしくない。ペットについて自分事のように考え、想像できる人が増えるだけでも殺処分は減るのではないかと思う。